

開会のあいさつ 活動報告「越境地域政策研究の現状」

川井 伸一氏（愛知大学学長）

戸田 敏行氏（愛知大学三遠南信地域連携研究センター長）

日 時：2018年2月10日（土）10：15～10：30

場 所：愛知大学豊橋校舎 記念会館 3F

○司会：皆さま、おはようございます。本日は寒さが一段と厳しく、土曜日の午前中にもかかわらずご参加いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより、愛知大学三遠南信地域連携研究センター主催「2017年度越境地域政策研究フォーラム」を開催したいと思います。

それでは、開催に先立ちまして本学学長の川井伸一よりごあいさつを申し上げます。

○川井：皆さま、おはようございます。愛知大学の学長をしております川井でございます。本日はご多用のおりご参集いただき、心より御礼申し上げたいと思います。

このフォーラムは今回で5回目です。愛知大学三遠南信地域連携研究センターが2013年に共同利用・共同研究拠点として指定されて以来、毎年実施しております。

以前から大学における地域連携・社会貢献ということが課題になっておりますが、近年におきましては、「地域創生」との関わりで地域における大学の役割が議論されているということです。大学と地域連携・社会連携との関わりという点では、愛知大学も長年の間、取り組みを進めておりました。現在、それを積極的に、先進的に推進している愛知大学の組織として、三遠南信地域連携研究センターがあるということです。

あとで紹介があるかもしれませんが、共同利用・共同研究拠点ということは申し上げましたが、それ以外にも、三遠南信地域の産学官の地域連携組織として四半世紀の歴史を持っている「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」に、愛知大学もメンバーとして加わって

おります。さらに申し上げたいのは、三遠南信地域連携研究センターが、三遠南信地域の将来のビジョンを策定する役割を期待されているということがございます。そして、同時に実務面においても、SENAの事務局の分室がセンターの中に置かれています。その意味では、単に研究だけではなく、実際の連携実務の上においても貢献をしているということで、私としても誇りに思っているところです。

簡単に申し上げましたが、今回は、パンフレットにもありますように極めて多様なテーマが盛り込まれており、大変豊富な内容になっているのではないかと思います。このセミナーの中で地域連携の在り方、特に大学としてどのようなことが期待され、どのようなかたちで可能なかということも含め、十分に議論し、考えていただく場になれば幸いです。

最後になりますが、本日は、愛知大学以外の先生方、研究者の方々にご参集いただいております。基調講演をされる柴崎亮介先生をはじめとして、シンポジウムに参加の方々、さらには午後の各分科会での報告者およびコメンテーターの先生方に対しまして、私から御礼を申し上げたいと思います。どうぞよろしく願いをいたします。

簡単ではございますが、以上をもちまして私のあいさつとさせていただきます。

○司会：それでは続きまして、当センターセンター長の戸田敏行より、「越境地域政策研究の現状」としまして、当センターおよび本フォーラムについて説明をさせていただきます。

○戸田：皆さん、おはようございます。三遠南信地域連携研究センターの戸田と申します。本日が第5回になりますが、「越境地域研究フォーラム」にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

本センターは文部科学省の共同利用・共同研究拠点で、越境地域政策を研究する日本の拠点という位置づけとなっております。5年が経過いたしました、概略的にどのようなことをやっているのかということをご紹介します。

最初に、そもそも「越境地域というのは何か」ということですが、スライド1の右側に日本の行政の構成を示しております。基本的に市町村、県、国の3層構造です。そして破線で示すのが「行政のボーダー」である地域です。ボーダーは、単に空間的なボーダーだけではなく、地域制度や様々な地域システムのボーダーです。歴史や経済の背景からこうした地域の捉え方が必要ですが、統治することが非常に困難であるということになります。そこで、どのように越境地域をつくっていけばいいのかということになります。

左には日本の例を書いておりますが、右側のEU（欧州連合）は国境になっております。階層的にできていくのが一般的に統治、コントロールの仕組みなのですが、そこに発生するのが越境地域です。しかし、越境地域から地域の統治、コントロールを発想していくと、これまでの見方や地域の構造が変わるということになります。

スライド左図は日本地図ですが、県境に接する市町村は全市町村の約4割になります。市町村が広域化を図る場合、コントロールあるいは統治していくことが難しい地域です。広域的に行政を越えることができない

い、効率化を図ることができない基礎自治体が4割に達するということです。逆に、この越境地域から地域政策を考えていこうというのが当センターの狙いになります。平成25年4月から平成31年3月までの6年間で研究期間ですが、現在5年が経過し、越境地域政策に関する研究を進めてきました。

スライド2が研究の仕組みです。三つの研究コアを持っており、ここで専門的な研究を行っております。第1のコアは「計画をどのようにするか（越境地域計画コア）」、第2は「情報をどのようにつなげるか（越境情報プラットフォームコア）」、第3のコアは「その情報をどのようにモデルとして扱うか（越境地域モデルコア）」です。こうした「研究部門」以外に、越境地域で活躍する人材を育てようという目的のもとに、「人材育成部門」を設けています。

例年、当センター主催の越境地域政策研究フォーラムは何らかのテーマを持っておりますが、今回は「情報」と「モデル」がテーマになっています。基調講演をしていただきます柴崎先生をはじめパネリストの先生方に、地域情報をどのように活用できるかという点でのご議論をいただくことになっております。

さらに、当センターは共同利用・共同研究拠点として公募研究を行っております。スライド2の一番下にありますが、公募研究では、全国の大学あるいはシンクタンク等の越境地域政策に関する研究に対して助成をする取組みです。公募研究を通じて越境政策研究のネットワークを構築することを続けております。

また、先ほど川井学長からお話があったとおり、三遠南信エリアや全国の研究対象エリアに対して、越境政策研究の成果を応用していくこととなっております。

越境地域政策の必要性

- 我が国の基礎自治体の約4割は県境に接しており、県境地域政策の必要性が高い。東アジアにおいて国内越境地域・国境越境地域も出現しつつある。
- 行政境界を跨ぐ越境（クロスボーダー）地域（県境地域、国境地域）は、統一的な政策主体や地域政策データが整備されていない。
- 地方分権進展を背景として、越境地域の重要性が増している。

越境地域政策

スライド1. 越境地域政策の必要性

研究体制

越境基礎研究（共同研究・コア研究間の連携）

公募研究（大学・研究機関）

地域間交流研究

スライド2. 研究体制

す。

スライド3は各研究コアの研究テーマです。現在の主なテーマを例示しますと、「越境地域計画コア」では、地方創生事業における広域連携が越境的な効果をどう持つのかという研究をしております。また「越境情報プラットフォームコア」では、自動車産業において、部品産業の空間的な繋がりがどのようになるのかという経済的な分析をしております。そして、「越境地域モデルコア」では、県境周辺の大型店立地をどのようにコントロールしていくのかという研究をしております。

スライド4は17年度公募研究の一覧です。公募研究は2種類あります。「一般共同研究」は学術的研究です。17年度共同研究をご担当いただいた皆さんに午後の分科会でご発表いただく予定です。もう一つは「地域間交流研究」です。行政界をまたぐ越境地域では、調査研究や地域形成に関する活動主体が作りやすくなり

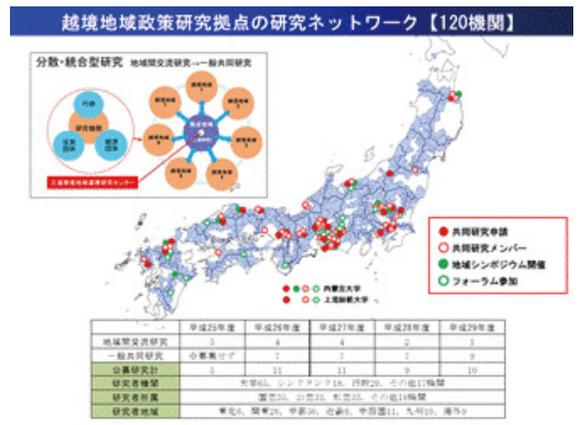
ます。そこで、そのような場を構築することを目的とした研究になります。以上の2本立ての公募研究をおこなっております。

これまでの5年間に全国の大学、あるいはシンクタンク等と研究連携を図ってまいりました。一つの研究プログラムに複数の組織が参画していますが、トータルでは約120機関と越境政策に関する共同研究を実施してきたことになります。全国北から南までになります。また、愛知大学は中国との連携が深いので、内蒙古大学経済管理学院、上海師範大学などの海外を含めて、越境地域政策研究をおこなっております。

国内の一例を申し上げますと、長野県・新潟県の県境地域である上越地域、青森県と北海道の青函地域など、従来の地域づくりのヒエラルキーから外れたところのネットワークが増加しています。このような県境を越えての組織・地域づくりをおこなっている地域が、日本にも100カ所ほど確認されます。こうした地域と

研究コア別研究テーマ2017年度	
研究分野・課題	研究テーマ
越境地域計画コア	
越境地域ガバナンス	ガバナンス 県境を越えた自治体間の連携に関する研究：戸田新行、高橋大輔、小川勇樹（2013～コア研究） 県境地域を軸とした流通経路と流通に関する研究：戸田新行、高橋大輔、小川勇樹、鈴木洋幸、鈴木洋幸（2013～コア研究） 三遠南信地域連携事業に関する研究：戸田新行、小川勇樹、鈴木洋幸、鈴木洋幸、鈴木洋幸（2017～コア研究） 地方創生政策における広域連携の実証的検証：戸田新行、小川勇樹（2016～コア研究）
越境による地域維持と開発	南北行政界の移住・二地域居住に関する研究：戸田新行、小川勇樹（2014～コア研究） 移住予測に基づく地域計画立案に関する研究：戸田新行、小川勇樹、鈴木洋幸、鈴木洋幸（2017～コア研究）
越境情報プラットフォームコア	
越境地域の産業データ基盤	自動車部品産業データベースの構築：清浦（2014～コア研究） 自動車部品産業の産業構造の経路政策立案：清浦、加藤達也（2015～コア研究）
越境地域の防災データ基盤	リスク管理 拡大地域による災害復旧に際する社会リスクに関する研究（予定）：大木繁子、野村麻生、清浦（2016～コア研究） 行政界を越えた災害復旧の地域間連携におけるGISを活用したシミュレーション分析（予定）：森田真由、清浦、加藤達也（2017～コア研究）
越境地域の基盤データ基盤	情報基盤整備 三遠南信地域研究の基礎データ基盤とデータベース構築：清浦、鈴木洋幸、加藤達也（2017～コア研究） 地方間連携促進政策に関する知データベースの構築：清浦、加藤達也（2015～コア研究）
越境地域モデルコア	
越境地域の空間モデル構築	ガバナンス 名古屋大学国際院に関する地理学的研究：鈴木洋幸（2014～共同研究） 県境地域を軸とした大規模商業施設の立地に関する研究（予定）：伊藤正之（2014～コア研究） 大規模商業施設に関する立地適性と広域能力発展に関する政策研究：鈴木洋幸（2014～コア研究）、伊藤正之、西野寛久夫ほか（2016～共同研究） リスク管理 行政界を越えた災害復旧の地域間連携におけるGISを活用したシミュレーション分析（予定）：村山隆（2017～コア研究）
産業経済連携	産業経済連携 拡大地域における地域間連携としての小企業間の連携に関する地理学的研究（関連研究）（鈴木洋幸）：鈴木洋幸（2014～コア研究） 三遠南信地域における観光振興の英語に関する研究：村山隆（2016～コア研究）

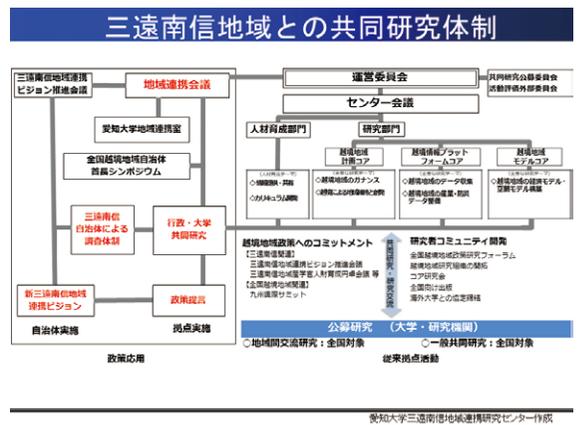
スライド3. コア別研究テーマ



スライド5. 研究ネットワーク

公募研究2017年度	
一般共同研究 9件採択	
テーマ：【ガバナンス形成】	中国やモンゴル自治区を中心とする「越境地域連携」に関する研究 対象地域：吉林省・黒龍江省・吉林省・遼寧省・河北省・山西省など、代表者：陳曉（中国華南大学大）
テーマ：【ガバナンス形成】	「越境地域研究」 越境地域研究 越境地域研究 越境地域研究 越境地域研究 越境地域研究 対象地域：長野県・山梨県・北山県、熊本県・鹿児島県、長崎県・福岡県、岐阜県・大垣市、代表者：高木剛彦（九州大学）
テーマ：【企業経済連携】	越境地域における流通経路と流通政策に関する地理学的研究 対象地域：越境地域、代表者：清浦（愛知大学大）
テーマ：【産業経済連携】	輸送用機器製造産業の産業クラスターの形成とネットワーク構築に関する実証分析 対象地域：三遠南信地域および岐阜県、愛知県、三重県、代表者：河上正也（愛知大学大）
テーマ：【産業経済連携】	観光地帯を軸とした交流促進に関する地理学的研究 対象地域：大分県・熊本県・鹿児島県・宮崎県、代表者：清浦（愛知大学大）
テーマ：【生活環境形成】	県境を越えた交流促進に関する地理学的研究 対象地域：愛知県・岐阜県・静岡県、代表者：鈴木洋幸（愛知大学大）
テーマ：【生活環境形成】	県境を越えた交流促進に関する地理学的研究 対象地域：長野県・山梨県・北山県、代表者：高木剛彦（九州大学大）
テーマ：【生活環境形成】	行政界を越えた災害復旧の地域間連携に関する地理学的研究 対象地域：名古屋市中区を中心とした周辺市町村、代表者：吉田真由（愛知大学大）
テーマ：【生活環境形成】	行政界を越えた災害復旧の地域間連携に関する地理学的研究 対象地域：静岡県・静岡県、愛知県・静岡県、代表者：大木繁子（愛知大学大）
地域間交流研究 1件採択	
※ 越境地域政策研究の基盤づくりを目的とした、特定の越境地域（国内・国外）における産・官・学の研究者や行政機関によるシナジー効果を生み出す研究の促進	
テーマ：「移動可能な市場（越境ラウンジ）の地理的構造に関する実証的研究」 対象地域：三遠南信地域、代表者：小川勇樹（愛知大学大）	

スライド4. 公募研究



スライド6. 三遠南信地域との共同研究体制

研究連携をさらに深めていくことで、日本の国土計画等に対する一つの方向性が示せるのではないかと考えています。

先ほど川井学長のお話がありました。スライド6は三遠南信地域連携研究センターの研究と三遠南信地域との直接的な応用を図示しています。三遠南信地域という愛知県・静岡県・長野県の県境エリアは、39自治体250万人の人口規模を有しています。こうした越境地域では、地域ビジョンがなかなか持てないということが問題になります。三遠南信地域ではすでに地域ビジョンが策定されているのですが、本年が改定期にあたるということで、大学と地域の共同研究として計画の基礎的な部分を担っていくということになっています。スライド7はその内容です。地域ビジョン自体は総合的なものですが、まず実態調査から始めています。スライド8は各市町村のプロジェクトと県境を越えるプロジェクトとの関係性がどう

愛知大学三遠南信地域連携研究センター
第1次ビジョンの検証項目・手法

現行ビジョンの確認	1-1 三遠南信地域連携ビジョンの概要	SENACシナリオ資料
	1-2-1 サミット宣言の概要	三遠南信ウェブサイト資料
	1-2-2 サミットにおける参加者発言の分析	三遠南信ウェブサイト資料
	1-3 三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENAC)体制と直接事業	SENAC事務局資料
三遠南信地域の地域構造	1-4 SENAC関連団体(制度等含む)の設置	各関係アンケート調査
	2-1 人口の動向	統計データ調査
	2-2 三遠南信地域の人口・経済規模	統計データ調査
重点プロジェクトの展開	2-3 三遠南信地域の道路整備状況(2007-2017年)	各機関資料
	3-1 市町村総合計画での位置づけ	自治体総合計画調査
	3-2 地方創生総合戦略での位置づけ	自治体創生計画調査
	3-3-1 市町村事務事業との関連	自治体ヒアリング調査
	3-3-2 市町村事務事業との関連-特徴ある連携事業	各機関ヒアリング調査
	3-3-3 市町村の事業意向	自治体アンケート調査
	3-4 三遠南信活動団体の事業意向	各関係アンケート調査
3-5 重点プロジェクト別の連携状況カルテ	各分野まとめ	

愛知大学三遠南信地域連携研究センター作成

スライド7. 第1次ビジョンの検証項目・手法

市町村事業からの越境可能性

*2016年度調査で、重点プロジェクトに直接関連する市町村事業は3648項目(141/141/141/141の分野に多い)

重点プロジェクト	関連キーワード	実施事業数			
		愛知	静岡	長野	関係
①三遠南信自動車道の整備促進と三遠伊勢湾連絡(伊勢湾口道)	高規格道路、三遠南信自動車道、伊勢湾口自動車道	7	1	3	3
②河川、農林漁業、中間流通、中核流通、富士山静岡空港の整備と三遠南信へのアクセスの整備促進による国際ネットワーク構築	河川、空港整備	8	5	3	0
③ゾニクス光熱発電の早期実現と施設設置	ゾニクス光熱発電	12	1	0	11
④環境・福祉福祉を促進するネットワークの整備促進	環境、福祉施設整備、周辺アクセス	5	5	0	0
⑤連携を促すエコの連携	情報IT連携	2	1	0	1
⑥地域連携ビジネスマッチングの促進	企業間交流、経営支援、販路拡大	9	3	3	3
⑦国内外に向けた人材・企業連携の活動促進	企業研修・企業交流、人材育成	91	18	24	49
⑧特徴ある産業クラスター-拠点づくり(1)に連携を促した事業連携	産業クラスター、新産業創出、6次産業	30	7	6	17
⑨三遠南信大学・フォーラムの設置	大学との連携	17	3	6	8
⑩「道」の連携、農産物の産地づくり	民営農産、伝統文化	18	2	5	11
⑪地域連携を促す鉄道の有効活用	鉄道を生かした活性化	5	1	2	2
⑫海外への観光情報発信と外国人観光客誘致の促進	インバウンド、観光向上	21	6	12	3
⑬三遠南信アンテナショップの開設	特産品(観光土産・ブランド化)	39	9	15	15
⑭観光客・物産連携の振興に向けた共同プロジェクトの推進	赤松産物	8	4	3	1
⑮上地域・下地域間の自治体等が連携した地域活性化の推進体制の整備	自治体連携(雇用・住宅・交流連携)	51	13	8	30
⑯産業分野の連携を促した事業連携	連携・産地創出活性化	9	2	1	6
⑰三遠南信圏内自治体に対する自治体間の広域利用促進	広域連携体制の活性化	21	7	10	4
⑱連携を促した防災体制の強化	防災体制の広域化	11	5	5	1

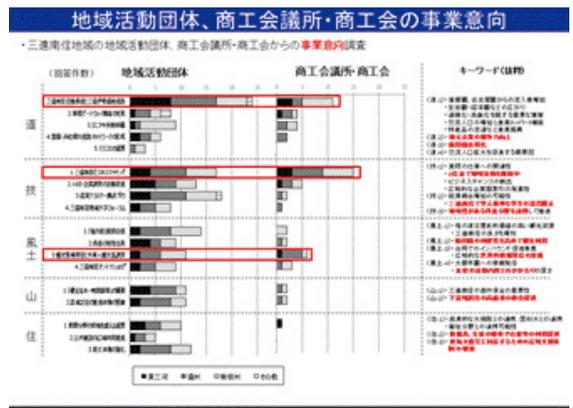
愛知大学三遠南信地域連携研究センター作成

スライド8. 市町村事業からの越境可能性

あるかという実態調査結果です。スライド9は経済界のプロジェクトに関する実態調査です。スライド10は海外での活動です。中国内モンゴルの事例ですが、10年間、スライドに示すような研究を続けております。「日中共同研究センター」を設置し、内モンゴ側と本センターとの共同研究を続けています。

そのほか、入り口のところでお配りをしたと思いますが、『図説 三遠南信のすがた』というGIS(地理情報システム)を使ったデータブックを作成しております。このような地域情報は県単位になっていることが多く、越境地域での一体的なデータを見る機会がなかなかないかと思ひます。ご興味のある方はご覧ください。

この後、東京大学の柴崎亮介先生の基調講演とシンポジウム「地方創生に向けた地域情報の活用とは」がござひます。午後には「越境地域とガバナンス」「越境



スライド9. 地域活動団体、商工会議所の事業意向

内蒙古大学経済管理学院との提携10周年

学術提携協定

2008年再機間の提携協定を結ぶ

2010年共同研究センター設立

2011年両大学の提携協定を結ぶ

人員の往来

EMBAの日本研修

砂漠の植林活動

教員の日本長期滞在

毎年の学術交流活動

内蒙古大学会場

三遠南信センターの会場

研究フォーラムの参加

GIS学会での共同研究発表

大学院向けのGIS講義

スライド10. 内蒙古大学との提携10周年

地域の防災減災と情報支援」「地理学的視点から見る越境地域」「越境地域と人材育成」「越境地域と歴史・文化」という多様な内容でご議論をいただきたいと思っております。

以上、本センターの概要についてご紹介をさせていただきました。どうぞよろしくお願いたします。

(以上)